

丑三っ人

作…清野和也

◎登場人物（3人・男1人、女2人）

助定（除霊師・男）

麻心（女）

楓（女）

福島県福島市土湯にある「思いの滝」。戊辰戦争直後。会津若松から落ち延びた楓と、彼女を城から連れだした真二郎がこの滝に辿り着く。この舞台では、真二郎の姿は客席には見えない。

楓

真二郎さま、滝です、滝が見えます。あそこまでいけば……。磐梯山も越えましたが。ここまで来れば、薩長の追手も……。しばらくは身を隠しましょう……。真二郎様、真二郎様？

真二郎に呼びかける楓姫。

そこに、巨大なひょうたんに明治期の大きなカメラ、背中に蓄音機を背負った、胡散臭い「除霊師」助定（じょうさだ）が登場。

助定

はい、ストップ。どの時代にも、怪談話つちゆうもんはあるもんや。歴史を紐解けば、平安頃まで遡れるツちゆう話。幽霊によって国がひっくり返るなんてことすらある。ああ、申し遅れました。ワイは、除霊師の助定（じょうさだ）。ジョジョって呼ばれたい。まー、文明開化の明治のご時世、除霊師なんて仕事あるん？って話やけど。これが儲かりまんねん。慶応4年戊辰の役は、そりゃあ、もうぎょうさんが死んださかい、幽霊もあっちこちに現れるんやね。まあ、半分くらいは、死に損ないの武士だったりしてワイも命危ない目に会うんやけど。今日の依頼は、ここ福島県は土湯の「思いの滝」や。会津戦争から逃げ出した落ち武者が、ここで命を落としたそう。

楓

真二郎さま！真二郎さま！！

助定

そんでもってそいつが大切に守ってきた姫様も。滝に飛び込み

楓

真二郎様……

助定

命を落とした。この世に恨みをもった二人は、ここに化けてでる言う話や

恨めしげにはける楓。暗転。

しばらく無音の後、花火の打ち上げの音。花火の開く音と共に、明転。舞台上は、先ほどと同じ、「思いの滝」のほとりに建てられた簡易な小屋。麻心がぼんやりと目覚めたばかりのように花火を眺めている

麻心
・・・花火。綺麗ですね、真二郎

横にいる誰かに話しかけるようにしている麻心。しかしそこには誰も見えない

麻心
今年も上がったのですね、真二郎の花火は。丑三つ時の悪戯・・・ほんとうに、迷惑な話（軽く笑って）・・・ちょうど、丑三つ時。磐梯山って昔から神様が棲む山だと言っているのに。そんな真夜中に花火なんてあげたら、神様もびっくりして起きちゃうでしょうねえ。命をかけてまで、やることなのかって、そういう人もいるけど・・・

小屋の中に潜んでいた助定がいきなり話し掛けて

助定
愛してんの？
麻心
え！？
助定
死んでんの？
麻心
誰！？
助定
答えないなら愛しているとみなすけども嫌です！！
麻心
そうか。なら、そういうこっちゃん（祈祷を始めようとする）
（その助定の手を止めて）あの。なんなんですか！？
あ、いや
麻心
迷惑です。誰ですか、あなた
助定
除霊師助定や。皆からは除助（ジヨジヨ）って呼ばれとる。よろしゅうは？
麻心
ようは、あなたみたいな、なんっちゅうかな、悪霊を払うのつてのが仕事やから
助定
悪霊？
麻心
ええ・・・
助定
誰が
麻心
お前さん

悪霊？

多くの方が自覚されていないこと多いんやけど、実際、ほら、今、丑三つ時やね。

こんな時間に、こんな薄気味悪い滝の側のボロツボロのほったて小屋におる！
おるってのが！もう、ねえ！

ははははは

ははははは

ふざけないでください。ここは私の弟が亡くなった場所です。そこにいて何が悪

いんですか！

いや、でもな

でもではありません

だから

だからなどといってはなりません

だつ、

だつてなどもつてのほかです

ツて！依頼文が来てたんやで！？

どなたからです

依頼人のことをペラペラ喋るゆう商売はしておらんや

ふざけないで！・・・ああもう、花火が

まったく迷惑な話やね、こんな真夜中に花火を打ち上げるなんて

何も知らない外の人は黙って下さい・・・お帰り願います

除霊するまで帰れへんよ。仕事やもん

・・・居るのですか？

え？

本当に居るのですか？

何が？

除霊するって事は・・・居るといふことでしょう

何が

・・・二十歳くらいの若武者の霊が出るという噂を聞いて、私も

え、何？一人肝試し？怖、なにそれ怖

・・・弟なんです

ほー、弟？

除霊って、なにか弟が悪いことを・・・？

いや、実際依頼がきてるわけやから。いきなり時代遅れのお侍さんがこんな薄気
味悪い滝んところに出てきたら、怖いやろ？

それでは、私から頼んでみます。言葉を伝えてください。それくらい出来るでし
ょう？

助定 あんな！ちょっと、あんたな、聞けっちゅうの
麻心 お願いです。弟と話しをさせてください
助定 ……はあ、話聞かん奴やな。あんた名前は？
麻心 那和麻心。弟は、那和真二郎です。
助定 解ったた。よろしく麻心ちゃん。成仏までの短い付き合いだけどな！

助定、窓の外を見て驚き動きを止める

麻心 どうしたんですか？
助定 麻心ちゃん。
麻心 何ですか？
助定 ……後ろ後ろ
麻心 ……

窓の外には、不気味な楓の姿がある

助定 あれ、弟さん？
麻心 (首を振る)
助定 じゃあ、気のせいやな
麻心 ちよっと！ちゃんと見てよ！
助定 無理無理無理無理。なんか雰囲気やばそうでしたもん。太刀打ちできる気がせー
へん
麻心 やっぱり居ますよね
助定 あれや、一緒死んだっていう姫様ちゃいますの？
麻心 わかんない
助定 いっせいで向きましょ
麻心 情けない。男なら
助定 いくで、一斉ので

二人共向かない。その背中に語りかける

楓 あの
助定&麻心 だたあああああああああ！！！！！！

逃げようとする二人。が、二人が足を引っ張り合い逃げられない

麻心 出番！出番でしょう！
助定 一旦、体勢を立て直す！
麻心 これだから、會津以外の男は
助定 なんやそれ。うあああ、除霊したる！！のああああ

助定、大きなひょうたんを取り出して

麻心 なにを！？
助定 除霊！！吸い込めエ！！！！

吸い込まない

楓 えっと何ですか一体？
麻心 効いてないですよ！
助定 堺の商人から買ったのに！
楓 えっと……この小屋の持ち主の方？
麻心 そ、そう……あの、家族です
助定 除霊師です
麻心 ちょっと黙ってなさい
助定 本当の事ですから
楓 あ、そうでしたか。ごめんなさい、間違えちゃったみたいです。
麻心 あ、はい
助定 え？
楓 失礼します

楓はける

麻心 ……
助定 吸えないやないか。何でも吸えるって言うと思ったのに！
麻心 幽霊って、吸えるんですか？
助定 ふわふわしてるイメージあるやん。浮いてるんやで？
麻心 いや、でも吸えはしないんじゃないや
助定 うそや。死んだら幽霊になって風になってな！パンチラとか心霊現象だと、信じ
とった。今となってはそれも儂い夢と散ったわけやなあ…
麻心 変態
助定 どういたしまして。いやしっかし、あの女やばそうやったな。姫様やった？

麻心 ちよつと暗くてよく見えなかったけど・・・

楓物凄いい勢いで戻ってきて

楓・・・

助定 おかえりなさい

麻心 迷われました？

楓 わたしたちの小屋ですよね。

助定 え？なに

楓・・・私たちの小屋だよねここなのになんでしんじろうくんじゃないひどがいる

わけ。え？いったいどういうこと？だれあんたたち？いったいだれにきよかも

らってここにいるわけ？え？ぜんぜんわかんないんだけど、説明してくれない

かな？ねえねえねえ、なんで説明しないのかな？なにかやましいことしてた

の？？。え？なんなのどっからきたの？何時だと思ってるの？丑三つ時だよ。な

んでこんなじかんにいるわけ？わけわかんないんだけど？え？え？え？え？

聞こえへんわ！これくらい大きな声で、はきはきと喋れ！

麻心・・・あの、あまりにはつきり見えるもので、すぐく認めたくないんですけど。

助定 幽霊ですよね、その方

楓 せやなあ。そんな感じやなー。そうなん？

助定・・・(睨む)

助定 どうやら、幽霊みたいだね

楓 いみわかんないんだけどなにこのおとこ、私たちの小屋にまよなかにしのびこ

んでなんなの。いったいなにがもくてきなわけ、あ、よくみてみると顔ホモっぽ

い。そういうことなの。うわまじでかそれも人の家とかうわーそれで女子たち

が喜ぶとか思っちゃってるわけ？勘違いも甚だしいわ、なんなの鏡見たらいい

んじゃないのかな

助定 今ホモっていったやろ。おい

麻心 ホモは別に悪くないでしょ。

助定 そこやろか、今突っ込むところは

楓 出て行ってください。女、ホモ顔

助定 ホモじゃねえし

楓 顔変えてから言ってください

助定 (顔を歪めながら) ホモじゃねえし！

楓 女、出てけ

助定 許されたで、ワイ

麻心 貴方が出てお行きなさい

楓
は？

助定
なんで挑発する？

麻心
幽霊なんているわけない。よく考えたらそうよ。その女は勝手にここに居座ってるだけ。

助定
いや、幽霊はおるで！！

麻心
いない。・・・弟の話も嘘なんですよ

助定
弟さんの幽霊はいないやろうけど

麻心
ほら。嘘つき

助定
いや、嘘やないで！！

楓
・・・うるさい

ト懐から小刀を取り出し

楓
んっ！！（小刀を振り回す）

麻心
えっ！

楓
よけるなよほんとに。だめとかいわないでね理由がないよねだってここにいるってことだけでそうされる十分な理由だよね？

助定
止まれ止まれ、お嬢さん

楓
・・・ホモ

助定
はい、お兄さん怒っちゃったぞ。本気出しちゃうぞ。ホンキッキーズだぞ、いいのか？いいんだな？はい、巻物！

麻心
なんかやるなら、早くして！！

楓が小刀を振り回し、麻心は必死に避ける。麻心、なんとかその小刀を奪い、楓に刺してしまふ。しかし、楓

楓
効きません

麻心
やっぱり・・・！化物・・・！

追い詰められる麻心。そこに助定、巻物を開いて

助定
麻心ちゃん、耳塞いでな。臨、兵、闘、者、皆、陣、列、在、前！！

楓
（苦しみ出す）

麻心
効いてる！！すごい！！

助定
（苦しみ出す）

麻心
効いてる！？なんで！？

助定 ふふふ。身をもって解るぞ！お前の苦しみ！

麻心 どうゆうこと

助定 耳塞いでろって！臨、兵、鬪、者、皆、陣、列、在、前……臨……ひよう……
とう……（次第に意識が朦朧としてきて）しゃ……か……い……
じん……かいじん？……外、人？

楓、しばらく苦しんでいたが、呪が弱くなり拘束が取れていく。助定を憐れむような目で見ている

助定 やめて、そんな目で見んで……（意識を失いかける）

麻心 なにやってんの！！

助定 はっ！三途の川が見えとったで！

麻心 馬鹿！？

助定 効果は抜群だった！！助けてくれてありがとな

麻心 つかえない！いいわ、貸しなさい！それ

助定 あ、ダメダメダメダメ！危ないから！！！！

麻心 うるさい！！……その女！

楓ですけど

麻心 くらいなさい。りん……！！

助定 ダメやて、麻心さん

麻心 何すんの

助定 危ないっちゅうの

麻心 大丈夫

助定 ……（無言で首を振り）

麻心 ……

助定 あなたのの、

麻心 大丈夫

助定 あなたの体が！

麻心 ……

助定 ゴメンナサイ嘘をつきました。僕の体が耐えられへんねん

麻心 もう、どっか行ってなさいよ！！

助定 ……ええい！耳塞いで！ふさげ！！臨、兵、鬪、者、皆、陣、列、在……

楓 ああああ！

助定 ……あんた、なに？

楓 除霊師助定！

助定 除霊？何それ。私のこと？

麻心 自覚ないの？
楓 だって死んでないもの
麻心 本気で言ってるの？
楓 なんで。それよりも早く出て言ってくれないかしら。ここはね、真ちゃんと私の家
麻心 真ちゃん？随分馴れ馴れしく呼んでるんですね
楓 悪いかしら、だって私、真ちゃんの恋人だもの
麻心 ……ははは
楓 ……ははは
麻心 誰が？
楓 私
麻心 誰の？
楓 真ちゃんの。那和真二郎くんの
麻心 なんだって？
楓 恋人
麻心 ふぎけないで
楓 あんたいったいななんですか？この芋のところがしみたいな！早く出ていきなさい！！！！
麻心 姉よ
楓 ……え？
麻心 姉。芋の煮っ転してみたいな姉。真ちゃんの姉のところがしです。こんばんは。…お名前は
楓 ……あ、えっと、楓といいます。えっと、お姉さま。えっと
麻心 那和ⅡのところがしⅡ麻心
楓 しまこさん
麻心 わざと？
楓 あ、いえいえいえいえいえ。がしまこ？こまこ？こまこまい？
麻心 ……ごめんなさい！！
楓 ……いいの、別に。ほら、立って
麻心 ……(手を取って) 本当にごめんなさい、私、真ちゃんのお姉さんになんて失礼なことを
麻心 いいの。にっころがしみたいだから
楓 許してください
助定 ああ、麻心さん、それ姫様なんやないん？
麻心 ああ、よく見ると美しいわね。そうね、鶴ヶ城にいたのね。私みたいなた田舎の

助定 焔の土にまみれて育った人間とは違うわね。ほら、この手もすべすべで・・・ひようすべみたい

助定 どうなん？本物なん？

麻心 知らない。会ったことないもの。お姫様になんて

楓 あの・・・改めて・・・真ちゃんとお付き合いさせていた দিয়ে おります、楓って

麻心 聞いた。何、もういつかい同じくたりやる？自己紹介する？那和Ⅱに

麻心 あ、いえ・・・その真ちゃんには・・・落城の折り、大変お世話になりました・・・

楓 ・・・・なんで触れたわけ

楓 へ？

麻心 ・・・・死んでるんじゃない。身投げして。

楓 え・・・えっと・・・あ、そうです！私死んでるんです！！ほら、こう、ゆらり・・・ゆらり・・・うらめしく

助定 いやいや、楓さん。あなたは、死んでいませんね

楓 ・・・・え！いや、死んでます！私は！真ちゃんの後を追って、滝に身を

助定 死んでいる波動が出ていない

楓 なんですか、波動って！

助定 あと、堺商人で吸えなかった

麻心 でも、さっき刺した時・・・

助定 ああ、そうですね・・・。ていっ！（楓を切りつける）

楓 何するんですか！！

麻心 ほらやっぱり！！

助定 まあ、簡単です。麻心さん。生霊ってやつですよ。死んでる人とはちょっと違う生霊？

助定 幽体離脱ってやつや。最近やけにはつきりとした夢を見ませんか？全てがリアルな・・・そして今、そんな状態やろ

楓 あ、はい。夢というか現実ですよね、これ！私、これ使いこなせるようになりまして

助定 使いこなせる？

楓 こう、自由に行き来できるようになったんです！今も、真ちゃんに早く会いたくて意図的に！

助定 すご

麻心 信じらんない

助定 まあ、そう珍しいことじゃない！日本は古来より生霊ってもんがあった。深い想いは、時折、命が体から抜けさせてしまい、霊体だけが想いビトのところにく！転がり込む！こんだ！うえるかむく！

楓 おー、さんきゅー。
なにやっとなねん！この阿呆！！
楓 ご、ごめんなさい
助定 早く戻り。生霊の状態ってのは、決して体に良くないんやで
楓 女の子に手をあげるなんて最低です！お殿様に言いつけてやるんだから
助定 もう無いやろ、お前んとこの城
楓 そうでした・・・
麻心 ・・・三文芝居
助定 何が？
楓 お姉さん？
麻心 あなたにお姉さんと呼ばれる筋合いはありません。良い。あなたの言うことも、
あなたと言うことも、胡散臭い。信じられません。何？生霊とか、心霊とか。悪
徳商法ですね。そのひょうたんか何か買わせるつもりなんでしょ！言っときま
すが、我が家にお金などありません
助定 やらねえよ！これ今や買えねえんだからな！絶対やらねえし！！
楓 あの、そちらの変態さんとは私初対面です、お姉さま
麻心 うるさい。出ていきなさい。出ていきなさい。出てけ！！消えろ！！ここはね、
真ちゃんの最期の場所なの。出ていきなさい！！
楓 私の家・・・
麻心 出て行きなさい
楓 ・・・
楓はける

麻心 もう、なんなのよ。なんなの・・・
助定 本当やで。阿呆やな、あんた
麻心 信じられるわけありません！
助定 頭かたいんじゃない？
麻心 うるさい
助定 あることはあるんやって
麻心 あるわけないです・・・どうして今日なんですか。どうして？今日はね、あん
た、大切な日なの。真二郎にとって大切な日なの
助定 どんな日？
麻心 なんて貴方にいわなきやいけないのですか
助定 ふつといて
麻心 ・・・火花あがっていたでしょう

助定 言うんだ、へー
麻心 あのね！
助定 なんて女ってこうなのかね
麻心 出てって!!!

再び楓登場

楓 聞かせてください
麻心 ……なんで戻ってきたの
楓 私、思ったんですけど！麻心さんがお姉さんって証拠ないし、もしお姉さんだったら……伝えなきゃいけないことあったし……
麻心 何？真二郎のこと？
楓 残念ですけど、お姉さんがお姉さんってちゃんとわかんないやダメです。考えてみたら私が騙されてるんじゃないかって。私、騙されやすいから…
助定 だろうね
楓 わたしは。真ちゃんを守るためにここにいるんです。毎日ずっとここにいます。今度は私が……。それで…。その…。なんか証拠ありませんか？
麻心 何、証拠って
楓 何かないんですか？私がありますよ、ほら、これ、真ちゃんからもらった端切れ。
助定 私を城から連れだしてくれた時の。血がついてる！
怖い
楓 ……お姉さんは？
麻心 ……何が言いたいの。
助定 つまり、麻心さんはお姉さんじゃない、お兄さんやと
麻心 ひょうたん壊しますよ
助定 あ？
楓 私から聞いていいですか？お姉さんにしか解らない質問。どうして、ここにいなかったのですか？
麻心 ……
楓 戊辰の戦の前。あの人は、お姉さんを先に會津から逃したそうです。そうしてここで待ってと頼んだ。ずっと待ってたみたいですよ。真ちゃん。お姉ちゃんのこと
麻心 そう、
楓 そうって…。まあ、お姉さんはもう二度と真ちゃんには会えないから関係ないですかね
麻心 何ですか

楓 いいです。やっぱりいいです

麻心 ……

楓 いいです。いいです。いいんです。そんなの聞いたって、なんにもならない。本人じゃなかったら意味ないですし

麻心 ……

楓 そうだ。あれ、知ってます？花火。真ちゃんの花火のこと。今日上がったですよ

麻心 ああ……五年目ね

楓 …… 昨年は上がりませんでしたよ

麻心 …… え？何言ってるの？だって去年は

助定 そろそろワイも話に入ってええかな？

楓 じゃあ、自称お姉さんに問題です。じゃんじゃん！

助定 ダメか

楓 あの火花が最初に打ち上げられた理由はなんでしょうか？

麻心 その年、真二郎の大好きな高津溜川（たかつしせん）先生が死んじゃってね。そ

れで、お盆の時に迷わないようにって、先生の大好きだった火花をね、そのとき

日新館で学んでた若い武士連中であげたの。お化けの出る丑三つ時に

助定 すぐえ迷惑やな

麻心 うん、それらしく怒られた。會津様にも怒られたって。でも、私は素敵だと思っ

た。會津様も、本当は嬉しかったんだと思う。高津先生を大切にされてたから。

毎年こっそり上げては怒られて……でも、ね

助定 なんやねん

楓 薩長がやってきた

麻心 …… それで。その年は上がらないかな、と思ってたの。でも、誰かがあげた。

助定 第二問！じゃんじゃん！

楓 えっと、その後の火花は

麻心 噂では會津から逃げ延びた侍が、弟の為にあげてるんだって

楓 はい

麻心 でも、楓さんがあげてたんでしょ

楓 ……

麻心 真二郎の供養の為の花火。……貴女を助けるため、真二郎は城を抜けたした。

楓 そうしてここで力尽きた

楓 …… お姉さん

麻心 知ってるわよ。有名な話。うちの弟の武士たる誇りを持った話。そして貴女は、

楓 滝に身を投げて、死んだ。はずだった

楓 ……

麻心 生きてたのね。そう

楓 あの

麻心 貴女と真二郎の霊が出るって、噂になって。私どうしても真二郎に会いたくて。會津を出て、磐梯山を超えて・・・そう、夢を見たの。そうして

助定 何？

麻心 ・・・・真二郎がね、遠い世界に行っちゃう夢を見たの。ふらふらっと歩いてて。

それを止めて、何やってるのって。しっかりしなさいって。そしたら真二郎、驚いた顔して、それで・・・

なんで夢の話？？どうなったん？そのあと？

・・・だから、ほら、そのあとはここにいるの

・・・

待って。楓ちゃん？

・・・はい

・・・楓ちゃんって、弟といつ私の話をしたの？

・・・え？

ここで力尽きたのよね。この場所ですから

・・・ねえ、除霊師、霊体同士で話ってできるの？

いやまあ、霊体同士なら話はできる。ただ、誰でもってわけじゃない。波長が近い人じゃないと

お姉さん。真二郎、生きてるんです。だから普通にお話も

どういうこと？なら、何処に居るの？どうして貴女はここにいるの？

その

そんな嘘やめて。真二郎は死んだんです。

いますよ。ここに

誰が？

真ちゃんが、ここに。

頭おかしいんですか

・・・麻心さん。私、本当によく分かりました。あなたは、真ちゃんのお姉さんです。・・・いや、本当はよくわかってたんです。話しに聞いてたから。容姿も

性格も全部。ごめんさい、私

あのね、楓ちゃん。よく聞いて。真二郎は死んだの。だから、ここにはいないの。あなたを救って、ここまで落ち延びて、そうして息を引き取ったんでしょ！貴方が、それを認めたくないから！貴方はそれを追って後追いすることなんて出来

やしなかったから！！だから！そんなことを言ってるんでしょー？

じゃあ！ここにいるこのひとは誰ですか。寝息を立ててるこの人は誰ですか？

楓

麻心

楓

麻心

楓

麻心

楓

麻心

楓

麻心

楓

助定

麻心

楓

麻心

楓

麻心

楓

麻心

楓

麻心

助定

麻心

楓

麻心

助定

麻心

麻心

楓

麻心

ここは誰が住んでいるのですか？ねえ、幽霊には見えないんですか。命を刻む心臓の音が、聞こえないのですか？

心音が聞こえる

麻心 ……何を言ってるのですか。何を？

楓 お姉さん。私、嫉妬しました。真ちゃん、お姉さんの話ばかりするから

麻心 何を言ってるの？どうゆうことなの

楓 お姉さん、

麻心 ねえ、あなた。いないわよね、ここに。

助定 麻心さん、ここに来るまでの間、誰かに会いました？

麻心 ……

助定 どうやってここまで来たん？

麻心 歩いてです。

助定 會津から？どれくらいかかった？

麻心 覚えていません

助定 気づいたらここにいたって感じ？

麻心 ……覚えていません

助定 去年のこと、何か覚えとる？

麻心 去年は…長州が攻めてきて

楓 ……それ、一昨年の話です

麻心 ……あまりにもたくさんのことがあったから。

助定 最後の記憶は

麻心 最後って。だから、その、真二郎と楓さんの話を聞いて。その幽霊が出るって話

を聞いて…家を出て、夢を見て

助定 ……それが最後？

麻心 ……

楓 ねえ、お姉さん

麻心 待って、何、みんな何を言いたいわけ？それじゃあまるで

楓 真ちゃんのお姉さんは死んじゃったんです。ここに来る途中に

麻心 ……ああ、やっぱりそうなんだ。私のこと騙そうってやだな

助定 麻心さん。ここを降りていけば温泉街や。降りて、見てきてみい。きつと誰も見

えないから

麻心 馬鹿ね、だまされないわ

助定 この日ノ本中探してきてもええで。本当にごくわずかの死んでいたり…霊能力がある人にしか出会えん

麻心 信じられませんか

助定 死んでるから、生きてる人の姿は見えんで。會津にでも行ってみ。まるで違う世界や。あなたの知っているとおりの街なのに、人がだーれもない。

楓 ……

麻心 ……ねえ、本当にここにいろの？真二郎はいます

麻心 死んでないの？嘘。嘘ね。私・・・真二郎はーあんなにひどい怪我をしていた真ちゃんね、よく言ってます。お姉が出てきて、何やってんだって言われたって。それで気がついたら、意識が戻ったんだって・・・あの日、お姉に助けってもらったんだって

麻心 嘘。おかしい！！

助定 麻心さん。ちょっとこれを見てもらえへんなにそれ

助定 カメラいいいます。生きた人の姿を記録する・・・。まあ、不思議な機械や。こいつには、死んでる人は基本的に映らない。映るとそれは心霊写真ってやつになる・・・

麻心 はつきりくつきり、ここに写ってますから。真二郎くん

助定 ……見ない。嘘、無理、信じられない

楓 お姉さん。今日の花火。真ちゃんがあげようって！！お姉さんのために。お姉さんと話したいからって

麻心 ……(カメラを助定から受け取って、モニター越しに布団を見る)真二郎・・・

楓 花火で呼び出して、それでお話したいことがあるんだって

麻心 ……そう。私、花火上がってる時、真二郎に話しかけてた

楓 きつと真ちゃんもその時一緒にお話してたと思いますよ。

麻心 ああ、でもきつと寝てたんだと思う。

楓 どうして？

麻心 だって、さんざんこいつが騒いでたから

助定 ー？

麻心 花火なってる時にね。

楓 ー？そうそう、寝てたかもしれへんな

助定 そうですか？あんなに楽しみにしてたのに。今、起こしますからね。ぐっすり寝ちゃってる。子供みたいに。真ちゃん。真ちゃん。お姉さん来てくれたよ・・・

麻心 しまった！

楓 どうしたの？

楓 サワレナイ！！起こせない！！私今霊体だから！ああー、ちょっと体とつてきます！！

麻心 何処に!?

楓 磐梯山!

麻心 体放置!?

楓 今日花火あげたの私なんです!

麻心 すごい!

楓 それで、あげたあとすぐ褒めて欲しくて、ちょっと幽体離脱してきちゃったんです!

麻心 いや、早く戻ったほうがいいよ!熊とかいるから!

楓 大丈夫です!結界はつてきたんで

麻心 もう楓ちゃんが除霊士すればいいんじゃないかな

楓 ちょっとひとつ飛び行ってきます!

麻心 ああ、いいよ、楓ちゃん

楓 お姉さんが良くても、真ちゃんがよくないんです!

麻心 いや、ほら、除霊師さんに頼めばいいでしょ。起こしてって

楓 あ、そうか

助定 え?

麻心 お願いします

楓 お願いします!

助定 どうするー?

麻心 お願い、おこして

助定 ……(おもむろにカメラで真二郎を殴ろうとする)

楓 何やってるんですかあああ!?

助定 起こせばいいんだろ!!

麻心 ひどい……!

助定 俺は除霊師だ!あのな!舐めすぎやで、おたくら。そんな手荒な方法しなくたってねいい方法があるわ!

楓 ……麻心さん、私、やっぱりひとつ飛びしてきます

麻心 お願いしていい?

楓 はい!

助定 待て。待て。待ちたまえ。

麻心 何ですか?

助定 ……ワイが、こいつの深層心理の中にダイブして、こいつの声をしっかりと君らに届ける。それで、ええやろ

麻心 できるんですか?

助定 できますわ。出来るに決まってるやん。

楓 でも、起こしたほうが

助定

これは、真面目な話な。生きた人と死んだ人は絶対に会話しないほうがええ。誰かを通したとしてもや。死んだ人が生きた人に引きずられる。それならまだしも、時たま、生きてる人が死んだ人に引きずられることもある。これ、危ないで。お互いの想いが強いほどな。

楓

生きてる私もお姉さんとはなさなかったほうが

助定

いや、麻心ちゃんの場合は例外的。自分の置かれた立場が全くわかってなかったから。それをわかるようにした楓ちゃんはむしろグッドジョブや！…だから、俺が仲介するで。ええか？

麻心

…うん。ありがとう

楓

でも、それじゃあ真ちゃんが

助定

伝えるのはええよ。言葉を伝えてあげればええ！楓ちゃんが、お姉さんの言葉を。…会話は、せんでな。

楓

…はい

助定

よし、それじゃ、深層心理にダイブするから。…その代わり、目、つぶってなんでですか？

楓

俺、深層心理ダイブの時、すっげえ顔になるんや。とてもじゃないけど、見せられへんの

麻心

…わかった。やりましょ、楓さん

楓

はい

二人目を瞑る。助定、それを確認して、背中 of 蓄音機を取り出し、耳にあてる。

冒頭の場面で実は録音してあった、「真二郎の声」の入ったレコードを最初から再生し、

その音に合わせて助定が喋り出す。

助定

…姉上。来ておられますか

麻心

うん、来てる

楓

麻心さん、会話しちゃダメです

麻心

そっか。ごめんなさい

助定

…元気でしたか？

麻心

…

助定

…姉上はいつだって元気ですからね。

麻心

え？

助定

語りかけてますけど！そう言う感じがこう！ね！花火、見えますか？じゃなかった、見えましたか？

麻心

は？

助定

この花火は、楓がうちあげてくれてます

麻心

・・・

助定

楓は、私の命を救ってくれた大切な人です

楓

真ちゃん・・・

助定

何を言ったらいいのか。ずっと考えてはいたのですが・・・いざとなると言えないものですね。許して下さい

麻心

・・・許さない(すこし笑いながら)

助定

ありがとうございます

麻心

え？

助定

じゃなかった、(一時停止)ひどすぎる。ひどい！ひどい！！

麻心

・・・除霊師さん。

助定

目開けちゃアカンて！！

麻心目を開けて蓄音機に耳を当てている助定を見て

麻心

それに・・・声が吹きこまれているのですか？

楓

えー！ひどい！それじゃ聞かせてあげればいいのに！

助定

見せ場やろ？

楓

それください。

助定

ワイがやるわ！高いんやで？これ？

楓

いいから

麻心

・・・

助定

はい

麻心

・・・やっぱりじよじよさん聞かせてください

楓

なんで

麻心

ダメだ。なんか。きつと今真二郎の声を聞いたら、ここにずっといたくなつてしまふから

楓

・・・いいじゃないですか！いても！！

麻心

・・・

助定

楓さんと、僕くらいしか見えないんやで？きつついで！

楓

私がいっぱいお話しますから

助定

そのうち、本当に弟さん殺しちゃうかもしれへんよ

楓

そんなこと！

助定

あるんやなー。実際、そういうこと。寂しくて寂しくて寂しくて

楓

だから、私が！！

麻心

楓ちゃん。楓ちゃんは、私といる時間なんかより、真二郎と一緒にいる時間を増やして？ね？

楓
……はい

麻心
ねえ、助定さん、代わりに話してくれる。

助定
……。いくで……。姉上に、どうしてもお礼を言いたかったことがあります。その……。なんといいいますか、あの世とこの世の間……。その世とでもいうのでししょうか？そこで、姉上と逢いましたね。姉上が……。その、亡くなった日に。そのとき、私のことを……。引き止めてくれてありがとうございます。あと……。私が姉上のこと……。あの落城の時も、その世でも、連れてこれなくて、手引っ張て連れてこれなくてごめんなさい

麻心
……。いいの。真二郎。

助定
ごめんなさい。私は、いつも助けられてばかりだった。それなのに、本当に何もできなくて……。私が姉上を殺したんだってなんかそんなふうにも思えてしまっ

麻心
真二郎。そんなことないよ。それは違うよ。

助定
だからその。ごめんなさいとありがとうを言いたくて。あとそれで、私、あの時ひとつ頼んでしまっていて……。覚えてないかもしれませんが、姉上が、ここで待っていてくれると。あの世とこの世のそのあいだで待っていてくれると。私が、不安だから。あつちに本当にいいの不安だから待っていてくださいって、多分頼んだ……。多分ではなく、本当に頼んだのです。情けない……。姉上のことだから、ずっとそこにいるんじゃないかって……。ごめんなさい
あやまらなくともいいのです。

助定
……。あやまるどころじゃないですね

麻心
解っていますね。

助定
ありがとうございます。それで、私が言いたかったことはさ……。姉上、早く黄泉へ向かって下さいということ。……。それだけです。毎年、姉上のためにも、綺麗な打ち上げ花火をあげますから。姉上にも届くように。そしてそのときにふらふらと戻ってきてください。それ以外の時は、あの世で幸せに暮らしてください。……。それだけです

麻心
……。うん、ありがとう、真二郎

助定
……。花火終わってしまいましたね……。それでは、なんでしょう……。また、また来年に。この世に未練がましくいてはなりませんぞ！姉上！……。それでは

麻心
……。はあー。本当に、実際の声じゃなくて良かった。あの世なんていきたくないとか言ってしまうそう

楓
麻心さん

麻心
……。ねえ、楓ちゃん

楓
はい。

麻心 ……真二郎の頭どこかな。見えないから……

助定 あ、ちょっと待ってな。(カメラのディスプレイをみながら)

麻心 え、あ、

助定 あ、はい、もうちょい右、右や。そこちゃうわ

麻心 こ、ここ？

助定 そこ！ハナ！ちゃうちゃうちゃう

麻心 除霊師さん。スイカ割りじゃないんだからさ

楓 ……(麻心さんの手をとって)

楓 ……ここにいます。麻心さん。ここに真ちゃんがいます。ここが心臓です。確かに命の音がします。聞こえませんか？どくんどくんどくん……

麻心 ……うん、聞こえる

楓 はい

麻心 どくんどくん

楓 生きてます。ちゃんと

麻心 私へのあてつけ？

楓 あ、いえ！

助定 分かんないでしょ？本当は？

麻心 そりゃ、そうだけど

助定 違う世界のことやから。それこそ、世界の裏側で起こってることを今日の前で見るようなもんや。見えないやろ

麻心 世界の裏側のことでも、想像はできます。一人じゃできないかもしれないけど。

助定 ……そうですか。さ、はよ成仏しましょ。もう日の出。いい時間やないですか

楓 麻心さん

麻心 楓ちゃん

楓 ……はい

麻心 ありがとうって伝えといて。あと、来年も花火、楽しみにしてるって。それだけ

楓 はい

麻心 ほら、楓ちゃんも早く戻りなよ。体冷たくなってるよ！

楓 確かに！結構時間経っちゃいましたね……！

助定 ほーら。行ってきな

楓 熊に喰われてるかもな

麻心 それじゃあ、そのお姉さん！真さんを！一生大事にしますからね！私、毎年あの山から花火あげますから

楓 気をつけなよ。あと、幽体離脱はほどほどに！

楓 はい！！

麻心 それじゃ、また来年
楓 はい、さようなら

楓はける

麻心 飛んでっちゃった

助定 ……麻心ちゃん、ここをよう見とつてな。霊道つてのがあるんや。薄い壁がある……。どう？見える？

麻心 ……うん、見える

助定 そこまっすぐ行つてな。そしたら、あの世行けるんで……そんなじゃ、またどこかで！アデュー！

麻心 ……うん、ありがとう

助定 ほんつと、なんもやってないんやけどな

麻心 そうね

助定 酷ない？

麻心 あの世、一緒に行きません

助定 あら、バレとつた？

麻心 とつくに

助定 これ、お仕事なんや

麻心 誰のために？

助定 生前からずっとやつとつたんよ！除霊師つて

麻心 へえ

助定 死んでからもたまーに依頼が来るんでな。まあ、こんなふうになっちゃってますし、ちよūdいかなあつて思つてな。姿は見せず、されど怪異は解決する。噂

が噂を呼んでな、実は結構評判良えんやで？

麻心 弱いのに

助定 麻心さんに合わせたんですけど

麻心 どうだか……ねえ、今日も依頼で

助定 そうですよ。えつと、依頼主が、真二郎さま。依頼内容が……あー、除霊じゃなかつたわー

麻心 はあ……しつかりして

助定 その他。霊と会話したい。ま、結果オーライやね！

麻心 本当に人気なの？

助定 基本、除霊しかこないんやつて！バトルものやで！次回！

麻心 そう

助定 信じとらんな。ま、今回も依頼達成、除霊完了っ完璧つてことで！

麻心 ……ねえ、助定さんって、引きづられちゃった人？この世に

助定 さあ？それじゃあ、麻心さん、いってらっしゃい

麻心 ……行ってきます。

助定 あの世行つた時の案内人よろしく頼むで

麻心 はいはい

助定 ほな、また

麻心 うん、さようなら

麻心はける。大きく手をふる助定

助定

そんじゃ、真二郎くん、お騒がせしました！来年も花火見に来るからよろしく。…ほな、また

助定も去る。劇終